

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話し合った内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	理念は事業所内に掲示、各自の名札にも個人理念を明記。年度初めには理念研修を実施し、理念に基づいた個人目標を発表する場を設けている。一年を通して、理念を盛り込んだ研修を行い、職員全員で意識統一を図り、統一された質の高いケアが提供できるように努めている。毎月のスタッフ会議では、日々感じるケアでの疑問は即日報告・解決できるようにその日の職員間で共有・上司に報告を徹底し、皆で最善の対応が出来るように意識の確認をしている。更にケア目標・サービス目標を決める際に、明日から実行すべき・実行できる内容に定め、朝礼では、理念と共に目標も唱和する事で、業務に入る前に、気持ちを新たにし、意識の向上に役立っている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	苑だよりの回覧継続や美東総合支所・地元銀行・郵便局・お店等に掲示をお願いし、地域の皆様に苑の取り組みや苑内での入居者の様子を見て頂けるようにしている。苑だよりの配布範囲を広げるなど、地元へ根付いたグループホームを目指している。春には美浜市役所へ花見に行き、新しくなった市役所も見学した。大田小学校開校式に参加。何十年ぶりに訪れた校舎を眺めながら「思い出がいっぱい」と話される利用者様の言葉も聞けた。芸術村で行われた「草炎太鼓」を向かい、迫力ある舞台に感嘆。更に、秋吉総合所・美東総合支所が新しくなった庁舎や図書館に行き、馴染みの場所がきれいになっている事を目の当たりにされ、「良かったね」と、とても喜ばれている姿も見られた。地域のお寺の行事も参加、懐かしい顔ぶれにも嬉しそうに話をされ、写真撮影など楽しい時間を過ごす事が出来た。地域の方からのご紹介で、新たな入居も決まるなど、地元へ根付いたグループホームを目指している「のぞみ苑」の更なる高みを目指す1年となった。	・苑だよりを見ながらの活動状況報告がされた。会議に地区の自治会長の出席もあり、利用者と地区民のつきあいも良好。市に対して様々な援助の要望がなされた。 ・地域の様々な諸行事に参加、高齢者対象の行事にとどまらず、内部にまで入り、地域密着そのものだと思う。 ・地域の方からの紹介で新たな入居も決まるなど「のぞみ苑」は地元へ根付いたグループホームだと言える。 ・地元のスーパーでの買い物や地域のイベントに積極的に参加する事で地域との繋がりを維持している。 ・苑だよりで嬉しそうなお顔をみる事ができ、ありがたい。		



3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	運営会議を活用した外部評価が今回で4回目になった。更なる質のいいケアを提供するためには多くの意見を引き出す事が重要と考え、運営会議の日程を早期に決め、出欠の確認を早い段階で行う事で出席率が上がった。会議の内容にも苑の取り組みの発表を加えるなど、初めて参加する家族様にも意見が出しやすくとともに、外部評価の項目を運営会議のレジメの中に取り込み、外部評価のどの項目の内容なのかを明確にし、意見を引き出しやすい工夫は継続している。新たに、職員が参加した研修などの内容も発表し、参加の皆様にも研修で得た情報を共有した。毎回テーマを決めて行うディスカッションは、家族・地域等のテーブル毎に分け、少人数での話し合いの場となって、皆さんの意見等が聞きやすくなった。運営会議を活用して、外部評価だけでなく、地域・家族とのコミュニケーションを、更に深める会議の場にしていきたい。	・運営委員から苑に対して言いにくい事柄も言える委員となれる努力をしていく ・運営会議の開催日程を毎月定例に決めるかどうかと思う。会議で行うディスカッションにおいてグループごとに分けての話し合いは、一つのテーマを話し合う場になっていない。独立した話し合いをしてはどうか。 ・運営会議において取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 ・他の職種の方や、地域・家族の方の参加により、リアルな意見や感想得る事ができ、今後のサービス向上へ活用する一部になる。	
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	運営会議は、市・社協・包括には必ず出席をして頂くようお願いしている。代表が理事を務めるグループホーム協会開催の研修に参加の声かけも今年度から始め、研修会の内容の報告も実施している。運営会議において、苑の取り組みを改めて「苑だより」を活用して発表し、それに対しての意見を頂く場を設けた。今年度は、お看取りに向けての訪問看護との連携があった。今回で2回目の連携になるが、担当医師・家族・訪看・苑の連携をしっかりと築け、利用者様・苑にとっても強いパイプができた。更に、今年度新たに取組んだ事は、新庁舎になった秋吉・美東の支所にピアノがない現状に対して、廃校のピアノが活用出来ないかと、各支所にご提案する。子供たち・高齢者年齢を問わず地域の方々に、音楽を身近に感じる事が出来る場所を作る事の必要性を訴えている。一緒に実現できるように多方面での協力をお願いしたい。	・苑から市関係行政機関に対して、はっきりと要望等が言われているが、市関係者の回答は持ち帰り回答ではっきりしない点が見受けられる。市関係から回答を得たのちに運営会議で発表されても良いのではないかな。 ・多彩な内容の苑だよりは毎回感心している。利用者の笑顔が素敵。ピアノ設置・多目的ホールのステージ設置は市長と議会議員にお願いしている。 ・市担当と日ごろから連絡を密にとり、事業所の実状やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。 ・市町村担当との良好な関係性が運営会議の際にも伺える。良い関係性は、より良いサービスや協力へとつながっている。 ・情報交換が出来ている。 ・年度初めの会議で関連団体職員が出席し、事業運営について説明が行われた。今年度4月から12月までの運営会議の内容で評価するとなると半年少々の評価になるので、遡れる人は1月からの評価をしてもらうよう補足があった。	

身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	「身体拘束その他行動制限廃止マニュアル」を作成し、委員会を定期的かつ必要に応じて実施している。研修についても身体拘束の内容や弊害について再確認しながら、スピーチロックなどのグレーゾーンの対応についての研修を中心に、新入社員に対しても別に研修を実施し、苑の方針を理解した上でケアにあたれるように努めている。日中の玄関の施錠は行わず、見守り・付き添いにて安全を確保し、拘束をしないケアに引き続き取り組んでいる。やむを得ない身体拘束の必要時にはご家族に説明・ご理解いただいた上で、身体拘束解除に向けて日々取り組んでいる。今年度も昨年に引き続き点滴施行時の拘束の事例があったが、そばで見守りしながら声をかけることで、拘束の必要なく点滴を終えることができた。		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・身体拘束については、日々指導されているが、基本マニュアルによって実施すべきで、実施の際は安全を第一に考え、家族・施設長へ報告を必ず実施して行うべきだと思う。 ・身体拘束について、マニュアル及び施設としての方針を職員間で共通認識するだけでなく、グレーゾーンの部分への対応など細かいところまで十分に組み込まれている。またやむを得ず身体拘束を行う際も、その必要性を検証したうえで、最小限で済むように取り組まれている。 ・玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・就寝中の移動監視はベッドの足元センサーマットでいいと思う。 - 身体拘束マニュアルを作成し、定期的に委員会を開催され、身体拘束をしないケアに努めている。 ・利用者と職員の様子をみていて、充分出来ていると思う。 ・身体拘束や行動制限をしない状況下での見守り・ケアは大変と思うが、施設全体で、研修等を重ね取り組んでいる。点滴施行時の拘束の事例があったが状況により緩和策ができるかもしれない。 ・居室とリビングの行き来がいつも自由に出来てストレスなく生活できる。 ・職員同士が声を掛け合い利用者が一人にならないように気を付けていた。音や声などで他の作業をされていても利用者の動きがわかるようにしている。 ・やむを得ない場合（危険な状態・命にかかわる場合）は、拘束もありだと思う。
----------------------	--	--	---	--	--	---

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	☒ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	「高齢者虐待防止マニュアル」を作成。研修では、身体拘束と合わせて、日々のケアに潜む不適切なケアについて、チェックリストを活用して自己を振り返り、苑内で陥りやすい虐待に繋がる場面を把握し、虐待の危険に向き合うようにして全員で取り組んだ。特に声のかけ方から派生するグレーゾーンの対応が、拘束や虐待に繋がりがやすいことを意識・自覚できるよう、繰り返し研修している。心ならずも虐待と感じる場面が見受けられた時には、職員間で注意し合い、見過ごされることのないようにしている。また、業務改善しながら、職員のストレス緩和につながる環境作りに努めている。		☒ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	・虐待防止マニュアルの厳守と職員の行為の程度の認識を具体的に研修・ミーティングで習得すべき。 ・虐待が発生する原因について、多角的な視点で振り返り、環境作り等を行う事が出来ている。 ・虐待防止の徹底がされている。 ・例えば、下剤など服薬は本人が服薬は嫌で拒否する時はどうしているか。 ・職員研修で知り得た情報等をスタッフ会議で共有出来ている。 ・苑の職員は虐待防止・身体拘束を十分に意識されている中で、利用者と接している。 ・完全回避は難しいが職員全体で取り組んでいる。研修も行っており、知らず知らずに陥りやすい安易な対応・声掛け、問題となりやすい事を把握し、職員間で注意し合っている。 ・利用者への声掛けはゆっくりと本人が納得するように心がけている。
	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	☒ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	現在、弁護士を後援とする成年後見制度利用の方1名とホームロイヤー契約の方1名がおられる。具体的には入退院・ケアプランのサイン、お墓・自宅の整理や庭木の管理などの支援、通帳管理などをしていただき、後見制度等を利用することで入居者の尊厳を確保できる支援をしている。入居者様財産、尊厳が守られる支援を継続したい。			
6	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	☒ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	入居契約書と重要事項説明書を入居時に説明と共に、入居者様、ご家族とも納得した上での契約をできるように説明する際には不透明さをなくすように心掛けている。料金改定などあれば文章作成して変更届に押印を求め、納得できないことがあれば即対応出来るように、家族が自由に記入できる「ご意見・受付書」も同封し、対応できるように努めている。			

9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	意見箱の設置、第三者窓口を社協にお願いしていることを契約時に説明。ご来苑時や運営推進会議への参加の際にお声掛けして意見や要望等を伺い、直接いただいたご意見は、スタッフ会議で都度取り上げて改善し、運営推進会議にてご報告している。苦情受付の書面を作成し、定期的にご家族に送付。いつでも苦情や不安事項に対して受け付けできるオープンな環境に努めているが、SNS やメールではなく、できるだけ対面にて対応し、誤解がないようまた信頼関係が崩れないことを重視している。年末の運営推進会議において、お寄せいただいた意見・苦情、アクシデント等の内容をまとめてお示しするようにしている。		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・運営会議にて家族の意見発表されている。会議で発表できない個々の要望も宛にされている。 ・日ごろから利用者・家族とのコミュニケーションを大切にされており、意見や要望を吸い上げケアに反映されていく仕組みが構築されている。 ・利用者や家族等が意見・要望を管理者や職員並び外部へ伝える機会を設け、その意見を運営に反映出来ている。 ・意見箱の投稿の内容・回答を誰もが見られるように貼り出しているか。 ・家族や構成委員からの意見が出やすい環境づくりに努められている。 ・意見箱も設置されており、出来ていると感じる。 ・来苑時の声掛けや、運営会議活用の外部評価で意見をくみ取って、運営に反映させる努力がなされている。 ・面会も事前予約で自由にできる。持ち込みも相談しながら受け入れてくれる。 ・家族の要望等しっかり聞いてもらえる。 ・個人情報プライバシーを守り、意見要望が会議で報告されている。 ・色々な事が話しやすい環境作りをされている。 ・定期的に様子を伝えてもらえているので安心している。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の業務の中で、常勤正社員は職員の意見を吸い上げて、ケアポイントミーティングや月に1回のスタッフ会議で話し合い、改善に努めている。意見が上がりれば何度でも検討して業務改善に努めている。新人もノートを作って振り返り、不安や疑問を明確化することで聞き取りやすくしている。			

11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	就業時間内に業務が終わるように時間の使い方についてもスタッフ会議を利用して業務改善に努めている。日々のケアの疑問や不安を抱え込まないよう、職員間でコミュニケーションを深め共有すること・声を掛け合うことをケア目標などに掲げている。その日の事はその日に解決・報告をモットーにケアに対しての不安を抱えたままにしないよう皆で意見を出し合い、積極的に解決に向けて行動する事・絶対に放置することがないよう、職員同士が話しやすい関係作りに努めている。		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・離職者が多くなく良好な就業環境と思慮される。 ・毎月の行事やお出かけなど、利用者・職員ともに楽しめるような催しが企画され、リフレッシュしながら仕事ができる環境を作るように取り組まれている。職員間でのコミュニケーションを大切にしながら、職場環境の改善に取り組まれている。 ・代表者は、管理や職員の個々の努力や実績・勤務状況を把握し、給与水準・労働時間・やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 ・生活サポート介護に見合った報酬が必要。 ・職員間でのコミュニケーションを深めるよう努められている。 ・打ち合わせの機会を設けられているので出来ていると感じる。 ・外部研修を良く工夫している。
----	---------	--	--	---	--	--	--

12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	理念に関する目標を発表することで、個々の目標が明確になり、ケアの質や技術の向上にも役立っている。ケア雑誌「おはよう21」やSNSを活用したプチ研修をロールプレイング実施することにより、実践に役立つ生きた研修は前年度から継続し、職員のケアの技術の底上げにも役立っている。グループホーム協会開催の研修にも積極的に参加。本人の希望があれば、資格取得などへの対応がいつでも可能な準備はしている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・職員を育てる環境もなされていると思うが、職員も育つ努力が必要だと思う。 ・職員間でお互いケアの質や技術を高めあう事が出来るような研修が工夫されている。 ・代表者は、管理者・職員一人ひとりのケアの実施と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながら研修していく事を進めている。 ・一つ一つの積み重ねが実を結ぶ。 ・各種研修会に積極的に参加されている。 ・積極的にされていると感じる。 ・苑内でのプチ研修の開催、外部研修への参加にも積極的に取り組み、職員のスキルアップにつながっている。 ・利用者に寄り添い感謝している。 ・代表は、気づいた時、注意・接し方の指導をしている。 ・脳科学者が講師となる研修会に参加し、アルツハイマー型認知症に関する知識や接し方等、GHの運絵に反映できる内容を学ばれていた。苑利用者がTIA（一過性脳虚血発作）を発症することが複数回あった。水分補給等の日常的な気配り、また、搬送が必要な場合、救急車が到着するまでの間の応急処置などについて研修を重ねられた。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表が理事を務めるグループホーム協会の方々の施設での運営会議に参加する事を今年度は実現することが難しかったので、来年度は必ずお互いの施設での運営会議に参加をし、グループホームならではの情報共有をしたい。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場にかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者様の生活歴をしっかりと理解することで本人の得意分野やできる力に目を向け、力を充分に発揮できるよう、またできることに自身が積極的に取り組めるよう、環境を整えてケアに当たっている。入居しても本人様が生活を諦めることなく、苑生活の中に「生きがい」を見つけていただけるように努めている。		

15	馴染みの人や場との 関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	☒ A. 十分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	今年度は、たくさんの馴染みの関係を構築することが出来た。大正琴の「美琴会」来苑の再開。利用者様の希望で初詣にお寺にご挨拶へ行く。地域のお寺の行事に参加し、馴染みの方々との再会。新しくなった秋吉・美東支所へ出向き、所員の方に施設案内をして頂き、図書館でも本を借りたり、紙芝居をしたりと馴染みの場所で過ごす事も出来た、大田小学校の開校式にも参加するなど、地域の一員として、関係が途切れない支援が出来た。来年度も継続していきたい。	・ 本人の想いを大切に、よく聞きよく観察して無理強いたくなく運営されている。 ・ 少子高齢化の今現在、主役は高齢者。頑張ってる楽しんで、笑って欲しい。 ・ 大田小学校の開校式への出席、みとう道の駅へのミニドライブ、サイサイみとうでのミニコンサート、散歩など、地域の行事への積極的に参加しており、地域密着型だと言える。 ・ 支援してもらっている。 ・ 色々な行事などがあり、楽しい苑生活を送っている。年賀状も家族が喜んでる。 ・ 好きだったお寺参りに行き、自分たちではできない支援をして頂き、ありがたい。	
----	----------------------	---	---	---	--	--

Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

18.	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時には担当の居宅ケアマネより情報をいただくと共に、センター方式を利用してご自身ご家族にもご協力をいただき、それぞれの思いや生活歴等の把握をするように努めている。入居後には職員が、ご本人からの聞き取りや日々の言動や行動から思いの把握に努めし、担当者が定期的にセンター方式を更新している。日々の生活の中で気付いたことや言動を、個人記録に記入し、変わらぬ思い、変わりゆく思いを共有できるようにしている。意向の把握が困難な方には、表情や行動などから思いを探り、ご家族の意見も参考にしながら職員間で検討している。			
-----	----------	--	--	--	--	--	--

17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	☒ A. 十分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	ご本人の意向・ご家族の思い、主治医の意見も参考にスタッフ間で共有し、計画作成者を中心に、1か月に1回モニタリング、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。第一は、ケアが本人の希望に沿っているかを考え、入居者からの発言を聞き逃さず、その内容を具現化するために、職員間での共有。カンファレンス会議の実施など、本人に寄り添うケアを心掛けている。毎月行うスタッフ会議では、今最も心掛けて接すべき入居者をリストアップし、課題の検討・方針に対しての意見交換・情報交換も行っている。また、入居者から何を求められているか、どうしてほしいのかを考え、寄り添える職員になれるための話し合いもしている。必要であれば、その都度家族への報告も行い、ご家族からの意見も察知できるように、PDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルを実行している。	☒ A. 十分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	・利用者・家族の意向をきちんと把握しながら、日々変化する利用者の状態に合わせて計画を柔軟に作成・見直しをすることが出来ている。 ・チームで作る介護計画とモニタリングはほぼ出来ている。 ・利用者中心のケア・家庭的な環境・地域との連携・利用者尊厳の尊重・認知症高齢者が安全で穏やかな生活が送れる支援をすることが出来ている。 ・利用者の意向を尊重され、その都度状態に応じて介護計画を策定されている。 ・運営会議でも事例報告があり、その方に合った取り組みがされていると思う。 ・スタッフ会議で問題点をリストアップし、情報を協議・共有する事で介護計画の修正につながっている。 ・持病もある中で、定期的な通院をして頂き健康維持が出来ている。 ・個々の特性を感じられて作成されている。 ・3か月ごとに介護計画を頂き、本人の現状が見えて助かる。 ・いつも現状に即した介護計画を作成している。 ・意見・要望をすぐに聞いて対応している。 ・入苑の生活が単独気味の利用者について、認知症が発症し、テレビ画面とのやり取りを繰り返す症状が現れた。医療機関を早期受信したところ、寂しさや孤独を紛らわせる行為の一つとも言われている事から、職員がその間に入り、コミュニケーションを増やす事で症状の軽減がみられている。
----	--------------------	--	--	---	--	--

18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の言動や状態の変化は、その日のケア担当者が個人記録表に記入し、特記事項はリーダーが介護業務日誌に記入して、管理者へ報告し共有している。変化の激しい方やしっかりケアを行き届かせる必要がある場合には、別紙ケア記録に状況の詳細を記入して情報を共有、それを元にケアプランの見直しに役立っている。ケアについての変更事項はカードックスに記入し、申し送り時に読み上げ、全員に周知できるようにしている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・個別の記録は事故時の貴重な資料。嘘の記録は絶対にいけない。 ・状態変化やケア方針について記録方法を工夫し、職員間で切れ目なく情報の引継ぎが行えるような仕組みを充分に構築出来ている。 ・職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 ・業務日誌の大切さがわかった。 ・日々の記録を記入し、職員間で共有出来ている。 ・個人記録の記入等で出来ている。 ・職員間の情報交換が良く出来ている。 ・夫婦で入所されている夫に体調不良と認知症発症について、職員が寄り添った対応を図り、施設全体の安定した運営に努力されている。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年度まず取り組んだことは、脚力の強化。歩ける方は現状の維持。車椅子の方もオムツにするのではなく、トイレでの誘導、排泄の自立を目標に、朝の散歩に加え、10時14時30分のお茶の時間が始まる前、スクワット10回を2セットしたのち、ラジオ体操の実施を始めた。入居者の「キラリを見つける」事、認知症だから何もできないではなく、日々の出来る事に目を向け、18名それぞれの「キラリ」を見つける事をテーマの取り組みは今年度も継続している。家族の一員として、苑で役割を持つことや、得意なこと(畑作業・ピアノ演奏・踊り、歌など)を引き出し・引き延ばす事に力を入れた事で、一日一日の生活に張りが出たとの話も聞けた。役割を持つことは「必要とされている」と感じる大切な事だと考えている。	・色々と工夫されている事が伺える。 ・既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多様化に取り組んでいる。 ・本人の想い、家族の希望を聞き、介護計画に活用されている。介護業界の形態や機能が多様化する中で、支援やサービスの在り方について取り組みがなされている。		

20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	権利擁護での面会の継続。運営会議においても、担当の弁護士先生より権利擁護について説明・質問を受ける場面も出来た。どのようにして擁護するべきかの話も出来た。苑が計画する行事においても、利用者様と準備・参加も行っている。行事内における劇に参加した利用者様もエンターテイナーの隠れていた才能が開花、「キラリ」を見つける事が出来、本人の力を発揮していることに繋がっている。歩行が不安定になってきた入居者には、即、車イスへの移行ではなく、朝の散歩・今年から始めたスクワット・ラジオ体操の継続など、安全に自分の足で自由に行動事が出来るよう努めている。常時車椅子の利用者様もオムツにするのではなくトイレでの排泄を実施。2名介助にて排泄の自立を促している。	・利用者・職員ともに演劇などされ、これこそ地域 資源だと思う。 ・利用者が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援がほぼ出来ている。 ・苑計画の行事に関しても、利用者と準備・参加。歩行が不安定な方に対して、即車イスの移行しない事は良い。残存能力を引き出し、自立を支える事が出来る事の支援だと思う。 ・馴染みのスーパーでの買い物で記憶の掘り起こし、感情の揺さぶり等の働きかけが出来る。	
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	基本的には、入居以前かかりつけ医を継続され、受診時にはご家族が付き添い、当苑での生活状況を書面にて医師に伝えるようにしている。ご家族の付き添いが難しい場合は、苑スタッフにて付き添いまたは電話による受診対応を行っている。苑の協力医をかかりつけ医とされた場合は、月2回の訪問診療、歯科については必要に応じて往診していただいている。歯科往診にて対応の難しい場合は、近隣の歯科医院に受診し迅速な処置を行っていただいた。入居時には夜間や休日などの緊急時の救急受け入れ先の希望を、第1～第2希望まで伺っておき、スムーズに対応できるようにしている。受診結果は電話や面会時にご家族に伝え、職員間ではカードックス・個人記録表に記録し共有している。今年度も入院が難しい方について、ご家族と協議し主治医の協力のもと訪問看護利用を実施している。また過去には、緊急入院に備え、ご家族と共に、主治医と受け入れ病院の医師との間で事前に体制を整え、スムーズな入院ができるように確立された例もある。		

22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院時には、医療機関に直前までの生活状況と認知面での特徴やその人に合った苑での対応方法等の情報提供をしている。入院時、病院内での感染症の流行で面会ができなかったが、ご家族や地域連携室等から情報を聞き取り退院に備えた。入院中に認知症により身体拘束が必要となられた方については、拘束による身体能力の低下・認知症の悪化を防ぐため、早期の退院ができるように苑の協力医にも相談し、退院受け入れ体制を整えている。また近隣の総合病院との連携が円滑になり、緊急時スムーズな受け入れをしていただけている。退院前には地域連携室と密に連絡をとり、退院カンファレンスに同席して退院後の生活が円滑にいくように情報を共有、ケアプランを立てて支援に繋げている。		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・利用者・家族・医療・苑での協議に尽きる。 ・入院の際の医療機関との細やかな情報の共有に取り組むことで、病院・施設間を切れ目なく移行出来ている。 ・入退院時の医療機関との協働でほぼ出来ている。 ・感染症などに備えて、医師の指導の上で充分すぎる予防と対応策を苑全体で考え準備しておくことが必要。 ・入院前、入院後の医療関係者との情報交換が出来ている。 ・関連の医療機関等との情報共有・連携を充分行われている。 ・急な入院は、環境の変化に身体面のみならず、精神面への負担もおおきく、認知症の進行が懸念される。出来るだけ早期に慣れた環境に戻れる様、医療機関との情報交換に努めている。 ・コロナ・骨折等で入院した際も、苑の協力で長期入院せずに済んだ。 ・退院の際、職員が付き添って今後の生活について良く聞いてもらい充分世話してもらった。 ・退院時の医療機関との連携も充分に出来ている。 ・感染症に罹患した入居者の治療について、医師と連携をとり、原因究明と適切な治療により快方に至った。
----	---------------	---	--	--	--	--	--

23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時に意向確認書についてご家族に説明して重度化・終末期についての意識付けをしている。終末期を迎えるにあたりご家族には、苑にて過去に行った支援の事例を交えて説明し、本人様の思い・ご家族の思いに沿ってできる限りの支援が行えるよう、医療機関や他施設への支援も含めて方針を決め、スタッフ間で共有しながら支援に取り組んでいる。終末期を迎えた利用者様家族に対し、主治医からの説明のお願い、急変に対する職員の対応の統一を図った。訪問看護を利用されたことで、ご家族のご都合に合わせて面会も重ねられ、ご納得できるお看取りが出来たのではないかと考えた		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・家族の意向により、物事を進められることと、家族に苑からアドバイスされることも良い事。 ・重度化・終末期について、家族に対して想定しうる事態についての事前説明を行う事ができており、施設での看取りとなる場合についても、過去の支援事例等から具体的にイメージ出来るようにしながら意向を確認されている。 ・重度化や終末期に向けた方針の共有と支援がほぼ出来ている。 ・家族と納得のいく方法を話し合う事が大事。 ・利用者・家族との意向を確認しながら、支援している。 ・家族・主治医との連携がとれている。 ・終末期の在り方は、本人・家族もそうだが職員にも負担がかかってくるので、事前の情報交換で共有、チームでの支援が出来たと考える。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	美祿消防から講師を招き「緊急時の対応」の研修を実施した。心肺蘇生を避難訓練に取り入れ、研修した内容を他の訓練で演練できたことは成果があった。急変時に備えて病気の把握と症状・状態に合わせた対応や緊急対応の判断基準の統一は昨年から継続している。事故発生時に職員間で報告の早い遅いで、ばらつきがあったためスタッフ会議を活用し、職員間での報告の基準の統一を目指す。共有。報告・解決・放置をしない事の徹底を促し、ケア目標に掲げ、朝礼時に唱和、ケア業家に入る前に意識の統一を図っている。			

25. 災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	研修においては、BCPの基本的な知識の再確認、通勤経路の見直し、緊急連絡網の確認など、基礎的な事を中心にしている。今回グループホーム協会で行われた研修に参加した代表よりスタッフ会議・運営会議にて復命し、いざという時職員一人ひとりがどのように動けばいいの、戸惑うことなく、即行動できるように職員の意識を高く持つように努めている。その他、ハザードマップの更新などBCPの簿冊の見直しなどを行った。避難訓練は6月日勤帯、11月夜勤帯で火事を想定に実施し、美祿市消防・地元消防団も参加、苑内での不備な箇所の指摘も頂き、今後に活かせる訓練となり、地域での協力体制の確認を行う事が出来た。	・運営会議では一つの重要項目として管理者から実施結果の報告、市消防からの評価の発表がされている。 ・全職員が対応できるような体制作り、研修を重ねている。 ・何かが発生したとき、手薄になった苑内の職員に頼りになるのは、地域の方。重要な苑の事業を継続し、早急に復旧すために、日ごろから準備する必要がある。 ・火災に関しては消防訓練を状況想定し、行っている。浮き彫りになった問題点に対して、軽減するための対応を考慮している。 ・BCPを含めた防災教育に取り組んでいるとともに、GH協会の運営側の役割も担っていることから、より危機管理意識が高まっている様子が伺えた。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・現実の災害発生時は運営会構成員として協力を惜しまない。 ・日常レベルで各機関や地域の関係者とのコミュニケーションがしっかりと取り結まれており、協力体制を構築するための取り組みが出来ている。 ・災害対策はほぼ出来ている。 ・安心している。 ・定期的に避難訓練の実施し、その都度スタッフ会議等で検討されている。 ・研修等への参加、成果をケアに取り入れている。 ・消防訓練で避難経路の整備が必要である事が判明。火元に近づく問題点も判明した。今後の対応が必要である。 ・研修会など行っている。 ・災害対策も充分に出来ている。 ・苑だよりで避難訓練の様子をみて、対策が出来ている事を確認した。 ・事業所避難訓練の実施報告があった。有事の際に少ない人数で対応する要領、職員が落ち着いて行動することが必要であるなど、反省項目の報告があった。
----------	---	--	--	---	--	--

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	☒ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	“認知症だからわからない、介助・介護が必要”と一般的に思われがちであるが、一人の人間として尊重した声かけや言葉を選んで寄り添うことをモットーとしている。ご本人の意向を確認・自己決定できるよう配慮し、生活歴や大切にされている価値観の把握の共有に努め、基本ケアを徹底、声掛けを統一したケアが行えるように努めている。スタッフ会議内でロールプレイングを活用した研修を取り入れ、スピーチロックやプライドを傷つけない声のかけ方など意識の共有、平均化に努めている。		☒ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	・施設にとって大事な事だと思う。職員のスキルと指導が重要。 ・最初の面談において、利用者・家族より生活歴・価値観などしっかり伺い、その中から関わり方のヒントを導きだし、利用者の理解を深めながらケアに反映する事が出来ている。 ・一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応がほぼ出来ている。 ・否定しない、叱らない、子ども扱いしない、をモットーに根気よく臨んでほしい。 ・利用者の生活歴や価値観等を職員間で共有し、支援している。 ・利用者の状態に合わせて一人ひとりに声かけをしている。 ・認知症だからどうせわからない、ではなく個人を尊重した対応を心がけて接する事が出来ている。 ・丁寧に接して頂いている。 ・プライバシーが守られている。 ・いつも明るく優しい言葉をかけてもらっている。 ・いつも明るく優しいこえかけをしている。 ・声掛けを何度もしてもらい認知症の進行具合を確かめてもらって報告をしてもらっている。現状がよくわかる。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	☒ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	苑としての基本的なスケジュールはあるが、本人様の気持ち・ペースを優先して、ストレスになる要因を可能な限り取り除き、安心して生活していただけるように支援している。お好きなこと(散歩、読書、趣味、家事、リハビリ等)を日課として生活パターンに取り入れて寄り添いを行っている。ご家族が支援できないことでも、利用者様からの希望があれば、ご家族と相談しながらできる範囲での支援を行っている。			

28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	食事は手作りを基本。季節感や入居者様の健康や好みを考え、献立を立案。苦手な主菜があれば、本人様に合うメニューを提供し、味や調理法にも、入居者様の意見を即時に取り入れて対応している。苑で収穫した野菜や、差し入れの野菜を使い、入居者様と一緒に下ごしらえ、盛り付け、配膳、片付けまで行う支援をしている。苑内調理で、作る工程の音や匂いを感じていただき、職員も食卓を囲み、会話などでも食に対する楽しみを持っていただけるように支援している。時には気分転換を兼ね外食に出かけることもあり、今年は山口グランドホテルのバイキングに行き、皆様、心もおなかも満足されている。		☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない ・苑の食事は食材を栽培・作り・食す、素晴らしい事だと思う。他ではなかなかないと思う。 ・高齢者の楽しみの一つである食事に関して、家庭的な雰囲気づくりや利用者の嗜好に合わせた細かい配慮等が出来ている。 ・食事を楽しむ事が出来る支援が充分に出来ている。 ・色々な面でその人らしい場がある事が大事。 ・利用者と職員一緒に配膳・片付け等を支援され、食事が楽しみになるように工夫されている。 ・利用者が楽しめるよう工夫している。 ・手作りを基本とした食事、収穫した野菜の調理、嚥下状況に対応した食事形態の調整など食べる事は生きる事を実践されている。 ・個人の好みを考慮している。 ・日々美味しそうな食事が並んでいる。メニューも豊富で手間もかかっている。パースデイメニューも最高!! ・食事を楽しむ支援も充分に出来ている。 ・食事はとてもおいしいと話してくれる。外食に行く機会もあり、ありがたいと思う。 ・できることは手伝い、認知症予防の効果に繋がっていると思う。 ・主食・副食・副菜について、介護度に応じた摂取すいように用意し、味覚を楽しむ事が出来るように配慮している。
----	----------------	---	--	---	--	---

29.	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている ☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	栄養スクリーニングを年に2回行い、栄養状態の把握に努めている。昨年度より、栄養管理委員会を立ち上げ、食事形態や内容が迅速に変更可能なように、ノートでのやり取りを通じて共有し日々改善できている。栄養が取りにくいリスクの高い方へは、医師に相談し経腸栄養剤(必要な栄養・糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルなどを補給するための流動食)を取り入れ、栄養摂取に努めている。入居者様一人ひとりの体調、月1回の体重測定による体重の変化を把握し、その方の状態に合わせて柔軟に対応している。水分摂取量は記録し夏場や夜間に限らず、脱水にならないよう水分補給を行っている。		
30.	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている ☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	毎食後、個々に合わせた口腔ケア(うがい)が難しい方へは、歯磨きティッシュやスポンジブラシを使用、口臭が気になる方へは、モンダミンなどを歯科医に相談の上使用)を行い、個々に合わせたブラシ選びやケアの仕方を考えて実施している。週に3回、ポリデントを実施。歯科医に口腔内の無料検診を行っていただき、口腔内の把握を行っている。口腔内の様子観察を徹底し、口腔カンジタ症などの異常があれば歯科医に相談、連携して早めの往診で対応していただいている。往診での治療が難しい場合は、近隣の歯科医に受診し、早い治療に繋がっている。「口腔ケアマネジメントに関わる計画書」を作成、歯科医、歯科衛生士の技術的助言を受けながら介助させていただいている。	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	・苑としては色々利用者のために工夫している事が分かる。 ・歯科医とも連携しながら適切に口腔ケアが行える環境作りが出来ている。 ・ひとりの口腔状態や本人の力に応じたケアが充分に出来ている。 ・充分に出来ている。 ・歯科医と相談しながら、個々に合わせた支援をされている。 ・利用者の状態に合わせて出来ている。 ・口腔ケアの拒否をする利用者もいると思うが一人ひとりにアプローチする事が出来ている。 ・定期的な歯科通院で歯の健康維持に努めている。 ・いつもきれいにして頂けていると思う。

31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	個々の排泄パターンやタイミングを把握するため、排泄時間を記録し、トイレ誘導の声掛けを工夫し、拒否なくトイレでの排泄が促されるよう努めている。自力で排泄が困難な時は腹圧をかけるなどの介助も行っている。また、一人ひとりに合わせてパット類を検討、日中はリハビリパンツでトイレでの排泄を最優先にしている。日々の便秘予防として、体操、散歩を取り入れ、水分をしっかり摂取できるよう職員全体で把握し支援、便秘にならないよう医師と相談し緩下剤の調整している。		☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	・利用者一人ひとりに対して、対応している。 ・個別に排泄パターンを把握しながら、快適な排泄環境作りに取り組まれている。 ・きめ細やかな排泄の自立支援がほぼ出来ている。 ・排泄時間を記録するとともに、量・形状なども記録していて素晴らしい。 ・個々の排泄パターンを記録され、排泄の自立に向けた支援をされている。 ・職員同士、工夫しながら出来ている。 ・排泄時間の記録を基にした排泄の誘導、失禁を良いとするのではなくトイレでの排泄・介助・腹圧援助・便秘対策等努力している。 ・良くしていただいて感謝しかない。 ・排泄の自立支援、声掛け誘導も充分に出来ている。 ・散歩・スクワット・ラジオ体操など動く事で予防や自立に向けた支援をしている。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	個人の入浴の願望を優先させ、マンツーマンで希望のタイミングで入浴を楽しんでいただけるよう支援する。一人での入浴を希望される方については、転倒や急変のリスクを説明し理解して頂いた上、傍で見守り、声掛けして安全確認をし、リラックスしていただく。入浴拒否のある時は、時間や人を替えての声掛け等、工夫して、入浴に結びつける努力をしている。時間などでもできるだけ本人の希望に沿えるようにしている。石鹸を馴染みのあるものにして対応するなど、心のリラックスを心掛けている。体調に合わせ、清拭、足浴、手浴など、時間を問わず行っている。			

33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	☐ A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	体調やその日の気分を確認し、日中は体操や散歩など、体を動かす支援のほか、料理や洗濯物たたみなどの生活支援を行い、日中の活動が夜間の安眠に繋がるように努めている。冷えが気になる方には、入床前に足浴を行っており、眠れない時には職員とお茶を飲みながら傾聴しつつ傾眠・安眠へのアプローチを行っている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	居宅療養管理を利用し、薬の管理をしていただき、薬剤師との連携を深めている。受診後の薬変更がある時には、目的・副作用などを質問し職員と共有、把握ができるように助言をいただいております。服薬後体調変化があればすぐに医師、薬剤師に相談している。一人ひとりがどんな服薬をしているか、薬の効果等一目で分かるようファイルを作成している。サプリメントなどを服用される方については、お預かりして忘れることのないよう支援している。		☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	・一人ひとりの服薬行為も大切な事だと思いが、それを正しく管理・記録する事も大切だと思う。 ・服薬管理についても、きちんと専門職と連携しながら、適切な服薬が継続できるよう取り組まれている。 ・一人ひとりが使用している薬の目的や副作用・用法や容量について理解しており、服薬の支援が充分に出来ている。 ・居宅療養管理とは、薬剤師がするのですか？ ・薬剤師と連携しながら薬の目的や副作用等、職員間で共有されている。 ・薬局と連携出来ている。 ・薬剤師との連携がとれている。 ・管理してもらっているので、心配していない。 ・きちんと薬の管理をしている。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	本人が今まで継続して来た事は、生活の中に入れ込む。歌の得意な人、ピアノが得意な人、料理が得意な人、畑が得意な人など、その都度の場面で活躍できるように支援している。過去の武勇伝を聞くことも大切な時間と考えている。得意なこと以外でも、挑戦する事でできる事が増えた喜びも感じて頂けるように、「やったことない」の言葉を発しても、一緒にやって出来る事が増えると、更なる自身や楽しみに繋がっている。最近は携帯電話を使用される方も増え、使い方などの支援をし、本人様が個別に家族様と連絡とれるように支援している。	・一人ひとりの立場に立っての支援がなされ、そのことが職員に共有されている。 ・一人ひとりの生活歴や力を活かした役割・楽しみ事の支援がほぼ出来ている。 ・評価がAで充分だと思う。 ・食事の手伝い、畑仕事など、利用者に応じた支援が出来ている。		

36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない 馴染みの美容室へ行く事や地元のスーパーに出かける事は日常的に実施している。四季を感じて頂きたいため、季節ごとのドライブも計画実行している。また、家族との出かけや外泊も、事前相談を頂き、実施できている。また初詣や地域の行事への参加、ギャラリーへ絵画を見に出かけるなど、苑内だけでなく、外に出かける事にも力を入れている。今年度は新たに県立博物館や4月には代表のソプラノリサイタルに広島へ、12月には古賀市に第九を聞きに行くことができた。 毎朝の散歩では、ご本人が「足を緩えない」と、積極的に散歩に行く入居者も見受けられる。	・スーパーへの買い物・散歩等、積極的にされているのを目にする。 ・日常的な外出支援が充分に出来ている。 ・文句なしに充分出来ている。一番幸せ。 ・花見やリサイタルツアー等、利用者や家族の希望を取り入れ、利用者のADLの状況で外出先の選択に配慮されている。散歩に関しても2人以上で会話の機会を設ける。気持ちが高揚するなど考慮されている。 ・定期的に毛染めもして頂いている。 ・職員多忙の中、色々な地元の行事に参加されている。馴染みの美容院に行くことを楽しみにしている。 ・外出行事を積極的に計画され、日々変化のあるGH運営に取り組まれている。日々の周辺散歩を取り入れ、健康維持に取り組まれている。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し使えるように支援している。	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない 基本的にお小遣いは事務所で預からせていただいているが、ご自分で財布を管理することを希望されている入居者様に関しては管理していただいている。財布残高も本人様と一緒に確認し、使用時はレシートをもらい、使用状況を把握している。	
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をし、手紙のやり取りができるように支援をしている。	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない 年賀状や暑中見舞いで本人様のできることにチャレンジしていただき、送られたご家族も喜ばれておられる。ご家族と電話で話したいとの要望があればリビングでゆっくりお話しできる空間作りを行っている。親しい方々に久しぶりの便りが出せるようにご家族にもお聞きしている。スマートフォンの使い方についてもその都度支援してやりとりを継続している。	

39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	共用の空間に常に生け花、観葉植物を絶やさないようにして、季節に応じたインテリア、季節感のある環境作りを試みている。温度、湿度、照明に気を配り、リビングに穏やかなBGM・懐かしの映像や体操動画なども流し、その時々の気分転換につながるようにしている。リビングの席の配置も入居者様同士の関係性に配慮し、常に皆様と日常生活から生まれる共同作業が出来やすく、笑いに満ちた空間を作るようにしている。 苑庭には“楽天地”と名付けられた憩いの場を設け、気候のよい時には食事やおやつ、レクリエーションを実施している。	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	・入居者それぞれの思いの居室作りのお手伝いが出来ている。 ・季節に応じたお花やインテリアを随時設定され、利用者が楽しく過ごせる雰囲気作りや活動しやすい空間作りに取り組まれている。 ・苑では居心地よい共用空間作りが充分に出来ている。 ・居心地よい共用空間は感心するほど居心地が良い。綺麗だけでなく、安心安全を感じ、自分らしく尊厳を持って過ごせる場所の感じに近い。 ・安全対策を講じながら、生活感や季節感を取り入れるよう工夫されている。 ・工夫されながら行われていると感じる。 ・共用空間は生け花が飾ってあり、利用者の作品の展示、行事の写真の展示が配慮されている。 ・充分に出来ていると感じている。 ・とても快適で雰囲気も良い。
----	---------------	--	---	---	---	--

IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)

40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	担当者が中心となって、日々の会話から思いや願いを把握しその実現に努め個別の外出など行っており、食に関しても、本人様の嗜好に合ったメニューを考えている。意思表示が難しい場合でも、日々の言動を元に思いの実現に努力している。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	☒ A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	センター方式の記述を元に、生活歴や習慣に合ったケアに努めているが、情報量も限られ、本人様の体験談や日常の会話からも情報を引き出し、ケアに取り入れている。			

42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の状況の変化に注意しながら観察し、発言を中心に記録に残し、主治医・歯科医・病院との連携を図りながら支援を行っている。 引き続きカイロプラティックの資格を持っておられる娘様が週1回お母様とゆっくり昼食を共にしていただき、他利用者様の健康管理に定期的に施術をおこなっていただき、良きアドバイザーになってもらっている。 インシデント・アクシデントは記録に残し職員間で周知し再発防止に努め、場合によっては市に報告し、その都度、安全面・環境面を整えるようにしている。		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・運営会議で利用者のアクシデントも詳細に報告されている。対応策も報告され納得できる。 ・本人・家族の意向をくみ取り、それを職員間や医療機関等と共有しながら希望の生活が送れるような配慮されている。 ・利用者は自身の健康面等について、日々の状況を基にケア支援を受ける事がほぼ出来ている。 ・ヒヤリハットを含め事故に至らなかったことも、事故の未然防止のために警告信号と捉え報告し、アクシデント防止に重要。 ・関係機関に個々の状況に応じた助言等を頂きながら支援している。インシデント・アクシデントの記録を共有し再発防止に努められている。 ・関係先との連携もしっかり出来ている。 ・日々の状況の変化に注意しながら観察した事をもとにケアに取り組んでいる。 ・職員の管理体制が良い。 ・体調の変化があれば主治医などに相談している。家族にも連絡が密にあり助かる。 ・快適に過ごしている。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりのペースを大切にし、自由に生活できるよう支援しており、ご自身のやりたいことを大切に、生活に張りができるようにしている。新聞を読むなど、今までの習慣は継続しのぞみ苑での生活リズムを取り入れて頂けるように支援している。			

44	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A. 十分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	居室にお仏壇や位牌、本やバッグなど大切なもの、馴染みのものや使い慣れたものを置いていただいている。またご家族との写真を飾って思い出を大切にし、面会時には写真撮影して、ご家族との写真を可能な限り更新している。 暑中見舞い、年賀状など手紙のやり取りで、遠くの知人とも交流が途絶える事なく県外からの懐かしい友に会えている。		A. 十分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・利用者それぞれ思いが異なると思うが、出来るだけの支援が大切。 ・これまで自宅で使っていた家具や置物などを家族にも伺いながら持ってきてもらっており、馴染みの環境作りに取り組まれている。 ・利用者はなじみのものや大切にしているものを身近に持つことがほぼ出来ている。 ・共同生活に必要な協調性も自然と身につく支援をされている。 ・利用者希望の物等を家族と相談しながら居室に持たれている。 ・制限されることなく出来ている。 ・馴染みの物や家族の写真を飾り、身近に持つことが出来ている。 ・柔軟な運営がなされている。賀正はとても楽しみにしている。 ・面会時、居室に本があった。読書が好きだったのでありがたかった。
45	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A. 十分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域のギャラリーや太鼓の演奏会代表のリサイタルや「第九コンサート」にも希望する入居者は参加するなど、本人の希望があれば、家族に相談しながら実行出来るように努めた。法事など冠婚葬祭での外出や帰省したご家族との面会または外泊などを通して長い時間をご家族と共に過ごすなど、希望に添えるようにしている。	・苑の積極的な活動及び利用者の想いをくみ実施されている。 ・利用者の意向によって、催事等の参加をすることが出来ている。 ・自己評価がB判定にしているのはなぜか聞きたい。 ・自宅へのドライブの付き添い、空き家バンクの紹介、催事の参加等、本人の意向や希望で参加できている。 ・コンサートなど外に連れて行っていただけてありがたい。		
46	本人が持つ力の活用 本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A. 十分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日常できることをそれぞれ考え、それぞれの得意なことを役割分担しながら生活していただいている。特に料理では、共同生活の基本として、協力しながら料理を作ることから食器拭きまで、個々に合わせて取り組めるように努めている。生活全般において、家での生活にできるだけ近づけるように工夫している。			

47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	☒ A 充分にできている ☐ B ほぼできている ☐ C あまりできていない ☐ D ほとんどできていない	会話や活動に積極的な方が多く、暮らしに活かしていくことは容易で、消極的な場合でも、関わりを多く持つことで傾聴しながら、日々の生活に役立てている。ご本人の「キラリ」を見つける取り組みの実施が持つ力の活用につながっていると思う。 毎日の散歩を通して四季を体感し、会話を楽しみながら、歩く喜びを実感できている。		☒ A 充分にできている ☐ B ほぼできている ☐ C あまりできていない ☐ D ほとんどできていない	・苑内は、大きな声と笑いそして職員同士の連絡の声が聞こえる。このまま続けてほしい。苑に訪問した際、誰となく挨拶がなされている。 ・毎日の散歩やドライブなど、施設外へ出る機会も多く、利用者の表情も良く、楽しい会話が飛び交い、和やかな雰囲気を感じ取る事が出来る。 ・利用者は生き生きと過ごす事が充分に出来ている。 ・利用者の性格等に応じ、職員がしっかり傾聴する事により対応されている。 ・行事を多く行っている。充分出ている。 ・利用者同士や職員と会話によって、一人の世界に閉じこもることなく、日々暮らすことが出来ている。 ・職員の対応が良いのでうれしい。 ・散歩を楽しみにしていると共に身体を動かし、運動している自覚が本人にある。 ・色々なイベントがあり楽しそう。 ・苑だよりに写っている表情がいつも楽しそうで生き生きとして見える。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	☒ A 充分にできている ☐ B ほぼできている ☐ C あまりできていない ☐ D ほとんどできていない	入居前と何も変わらず、地域の人たちと関われるように、できるだけ行事等には参加している。今年は小学校の開校式や建て替わったまちづくりセンターにも出かけている。地域との繋がり・関わりなど、苑だよりの内容で紹介している。	・訪問した際、明るく楽しそうな苑内の雰囲気が伺える。 ・利用者は近隣や地域の人々と交流する事が充分に出来ている。 ・一人ひとりのキラリを見つける取り組みが、のぞみ苑だよりをとおして分かりやすい。行事への参加も積極的。		

本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている

- A. 充分にできている
☒ B. ほぼできている
 C. あまりできていない
 D. ほとんどできていない

苑は、生活を共に生きる「第二の家族」を目指し、日々寄り添う事に強化している。「認知症だから何も出来ない」ではなく「本人の出来る」に目を向ける事を大切に考えている。「本人のキラリ」を見つめる事は継続しつつ、個々が役割を持つことで自信をもち、生きがいと繋がる生活を送ってもらっている。発する言葉を聞き逃すことなく、想いを実現する事に手を差し伸べるなど、利用者様との信頼関係を作るには様々な方法があり、その一つ一つに誠意をもって対応していけるケアの実現を目指している。今現在、気づけなかった事、報告が遅れて対応が後手に回ってしまった事など、反省すべき点はある。反省すべき点はしっかり受け止め、職員で共有・力を合わせてし、繰り返さない職場環境を作り、利用者様・ご家族様が安心して日々を送れるように努めていく。「のぞみ苑」に来てよかったと思ってもらえるよう今年度より更に来年度、質の良いケアを提供していきたい。

- ・利用者の方が「第二の家」として、楽しく毎日送れるよう支援し、働く職員もお互い協力し合い共に楽しい職場作りを目指してほしい。
- ・利用者は「のぞみ苑」に入居している事で、安心でより良い日々を過ごしている。
- ・「のぞみ苑」に来てよかった。入所させて良かった。と思ってくれよう、そんなグループホームであってほしい。
- ・認知症だから何もできないとくるのではなく、出来る事を維持・増加させることが出来るように、キラリ探しが出来ている。利用者・職員の笑顔がグッド!!

- ☒ A. 充分にできている
 B. ほぼできている
 C. あまりできていない
 D. ほとんどできていない

- ・利用者が今まで生活してきた自宅ではないが、新たな生活の場所として今まで通り、毎日楽しく安心して過ごす事の出来る苑作りをおねがいがしたい。
- ・利用者と職員間に一体感があり、すぐに打ち解けられるような関わりや場の設定など工夫されている。
- ・利用者は「のぞみ苑」に来て良かったと思っていると。
- ・朝の散歩は毎日の光景として地元へ根付いている。今後も継続してほしい。
- ・毎日の散歩の状況や雰囲気は、近隣の住民からも好評である。
- ・日々の活動内容を見ていて、出来ていると思う。
- ・本人らしい生活が出来るよう、引き続き苑で楽しく元気で過ごしてほしい。いつもありがとうございます。
- ・日々の生活の積み重ね、穏やかに時にはめりはりをつけて、保障された衣食住、全てが苑の日々の努力のたまものと思っている。
- ・入所から長期にわたりお世話になっている。長生き出来て感謝しかない。
- ・生活しやすいように、色々工夫されていて安心して生活出来て、家族も安心している。一人ひとりに対応しているし、色々なことにチャレンジしている事がありがたい。
- ・今は穏やかに過ごせている。会えば「帰りたい」「話す友人在りなくてさみしい」というが、一人で住んでいたら、このような快達で落ち着いた日々はなかったと思う。